

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070305000		
法人名	木曾工業株式会社		
事業所名	グループホームわらい		
所在地	福岡県北九州市戸畑区新川町5-6		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果確定日	平成22年8月19日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年7月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・毎日の消毒・清掃を行い感染症対策を実施しており、ホーム全体での感染症は発生していない。 ・常勤の管理栄養士が勤務しており、バランスの摂れた食事が提供出来ている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームわらい」は、戸畑区の中心市街地に近い住宅地の中に位置しており、1階には同法人の訪問介護事業所、2階が2ユニットのホームとなる。昨年度より町内会に加入したことで、地域との情報共有が円滑に行われるようになり、また隣接する牧山東市民センターとの連携により、運営推進会議へ館長の出席を得たり、行事参加等による交流が図られている。職員育成による質の向上に向けた取り組みも充実しており、計画的な研修・勉強会の実施、近隣のグループホーム間での定期交流・意見交換、外部講師の招聘等、入居者本位の暮らしの実現や、職員の自己実現につながるよう積極的に取り組んでいる。室内には手作りの絵手紙や俳句とともに、入居者の今年の目標が掲げられ、編み物等の趣味活動に勤しむ方、またそれぞれが個別の役割を果たしながら、穏やかな暮らしが営まれている。今後の地域との実践的な連携により、福祉拠点としての役割が期待される事業所である。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内リビングに掲示し、外部の方やご家族様が見える様にしている。また、運営推進会議での報告や広報誌にも掲載している。スタッフは毎朝の申し送り時に確認し実践する様に努めている。	1・2階の玄関ホールやリビング内の目につきやすい場所に理念が掲示されている。また事業所通信にも運営方針を示し、職員だけでなく、関係者への浸透・共有にも努めている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度より町内会に加入し、地域の一員となる様に努めている。また、運営推進会議には町内会長様の出席もあり地域活動の声掛けを受けている。市民センターの行事や近隣保育園との交流は定期的に行っている。	町内会に加入した事により、地域情報の共有にもつながっている。また隣接して牧山東市民センターがあり、運営推進会議への館長の参加を得たり、地域行事(川まつり等)へ参加している。近隣の初音保育園との相互交流(運動会・雑祭り・七夕等)があり、日常的にも散歩の途中で立ち寄り、踊りを披露してくれることもあり、入居者の方々にとっての一番の楽しみとなっている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・保育園児訪問・レク時の外部講師等の地域の方をホームに招き入居者様(認知症の方)との交流から認知症の理解を深めて頂ける様に努めている	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では行事・ホーム内活動を分かりやすい様にビデオや写真にて説明・報告している。合わせて予定も説明している。また、会議最後には意見交換の時間を作り、地域行事や防災、その他の意見を頂いている	入居者・家族・町内会長・協議会会長・市民センター館長・包括支援センター等の出席を得て、定期開催されており、積極的な意見交換の機会となっていることが、議事録からも確認できる。毎回、防災についての確認・課題提起も行われている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員様に参加して頂いており、その他は必要に応じ介護保険課にも連絡を取るようになっている。また、今年の3月で終了したが介護サービス相談員の定期的な訪問も受けていた	運営推進会議には、地域包括支援センター職員・牧山東市民センター館長の出席を得ており、活発な意見交換を行い、サービス向上につなげるよう取り組んでいる。また、見守りサポーター養成研修の実習生の受け入れを行っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内勉強会にて身体拘束について開催し、スタッフが理解出来る様に努めている。また、日中は施錠は行わずドア鈴やスタッフ間の連携にて対応している	身体拘束についての内部研修を毎年行い、職員全員の再確認、意識を深めるよう取り組んでいる。夜間以外は施錠しておらず、外出傾向のある方には、1階の同法人事業所との連携も図りながら、寄り添うケアを実践している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内勉強会にて虐待について開催しており、日々、意識しながら業務を行う様にしている。また、6(拘束)7(虐待)は5月勉強会にて実施	

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前入居者様に権利擁護の利用者がいた為に古いスタッフはある程度理解はあるが新しいスタッフについては今後の勉強会を利用し知識を深められる様にしたい	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、これまでに活用に向けてサポートを行った実績もあり、その過程において学んだことも多い。外部より講師を招聘する等、今後も継続して理解を深めていく予定としている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書の内容を説明し、理解・納得された上でサインを頂く様にしている。また説明スタッフのサインも行う様にしている。改正等がある場合はその都度説明している		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様・ご家族様の意見や要望は口頭にてその都度聞く様にしている。また、言いにくい場合も考えられるのでホーム内に意見箱を設置している。その他の機関として県・区役所の介護保険課の連絡先を記入している	家族の来訪の機会も多く、意見・要望の収集に努めている。家族の要望により、出勤職員の写真を掲示する等、運営に迅速に反映させるよう取り組んでいる。今後は更なる連携強化に向けて、家族会の結成に向けた働きかけにも期待したい。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し代表とスタッフで意見交換を行っている。また、行事・業務内容、その他事項もその際に話し合いの上で決める事が多くある	毎月行われる職員ミーティングにおいて、業務改善等について話し合いを行っており、職員からも積極的な発言がある。代表者は、職員主体の運営に努めており、意見や提案が反映されやすい職場環境作りに努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの状態や勤務状況に応じ希望休や公休の変更は随時実施しており、スタッフとの食事会を通し、交流や気分転換を図れる様にしている。また、給与・労働時間の変更は今後の検討課題である		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用条件は特に設けていない、本人の意欲等を確認し採用を決めている。スタッフの特技や能力を把握しレク・パソコン・熱帯魚等の係りを決め能力が發揮出来る様に努めている	職員の採用にあたっては、年齢や性別による排除は行っていない。開設時から長期勤務している職員も多く、安定している状況にある。代表者は、職員の主体性を大切にし、また個々の状況にも配慮しながら、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	5月実施した倫理の勉強会にて人権についての話をあり、今後は勉強会の予定と人権教育に努めていく	倫理や尊厳、身体拘束・高齢者虐待防止・認知症ケア等、高齢者の人権についての研修が、年間計画に盛り込まれており、外部講師も招聘しながら、職員全員の意識・認識を高めていく取り組みが行われている。	

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修には随時講習を受けており、新スタッフについても順次予定している。ホーム内勉強会や外部研修参加を検討していく		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は毎月他ホームとの会議・意見交換会に参加している。また、他のホームからの呼びかけだが昨年・今年度の参加もあり意見交換を実施している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接・話し合いを行う場合は慣れて頂く様と同じスタッフが対応し、慣れて頂いてからゆっくりと話を聞く様にしている。また、一人の意見にならない様に随時他のスタッフと意見・情報交換を行い、対応方法を検討している		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に同じスタッフが対応する。キーパーソンの方が中心だが他の方からも意見が聞ける様であれば聞く様にしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居依頼があった場合は入居の前提として話しを聞くのではなく相談として聞く様にしており、その時の状態を把握しサービスを決める様にしている、困難な場合はミーティングを利用し全体で話す様にしている		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが全て行うのではなく、可能な限り入居者様と一緒に食事作りや家事等を行う様にしている。また、入居者様に役割を持って頂ける様に洗濯たたみや掃除等を分担し行っている		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段の面会や季節行事を通して家族間の関係を維持出来る様に呼びかけ、支援している。家での生活状況等も聞く様にしている		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等規制はなく馴染みの方が訪問出来る様にしている。また、ご本人の希望で週1度の外泊や教会スタッフと連絡が取れる様にしている	毎週、外泊を予定し、家族との時間を楽しむ方や、信仰についての関係性の継続(教会への送迎・訪問等)に、柔軟に対応している。	

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	入居者様個々の状態に合わせ小グループに分か れて洗濯や工作等のレクを支え合いなが ら行って頂く様にしている。また、合同レ クや行事等を通して入居者様同士が交流出 来る様に努めている		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	蜜な連絡は取っていないがご本人・ご家族 や転居先の施設スタッフから連絡があれば 相談等受けている。また、必要であれば家 や施設にお伺いする事もある		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	フェイスシートやセンター方式を活用し、また 雑談の中から暮らしの意向が確認出来る様 に努めている。困難な方にはご家族やスタッ フ間で話し合い対応している。	長期勤務している職員も多く、馴染みの関係 の中で、一人ひとりの思いや意向の把握に 努めている。センター方式の活用や、3ヵ月 毎のモニタリングの際にも、再アセスメントが 実施されている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご家族や前所(在宅・病院・施設等)の担当 者からの情報確認やご本人様からも話しを 聞き把握出来る様に努めている		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	食事・入浴等の時間は決まっているがその他の 時間はご本人のペースに任せている、その中で 観察し家事や趣味活動を促し状態の把握を行っ ており、役割を持って頂くなど必要であればプラン に導入し、経過観察している		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	作成については担当者が中心となり行っ ているが時には月に1度のミーティング時、全 スタッフで検討する場合もある。また、必要 時応じ先生から指示や意見確認する場合も ある	家族の来訪も多く、意見や要望を収集し、介 護計画に反映させるよう努めている。3ヶ月 毎に、モニタリング・評価を実施しながら、見 直しにつなげている。	センター方式の活用や日々の記録を 活かし、また各担当者の意見を積極 的に収集しながら、地域密着型サー ビスとしての視点や、認知症へのアプ ローチをより具体的に示して欲しい。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン経過実施表に実施状況や特記事 項を記入している。入居担当者が中心となり 3ヶ月に1度、評価・見直しを行っている		

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームスタッフの人員に余裕があれば個々の希望に対応しているが、スタッフ不足の場合は併設のヘルパースタッフが対応する事もある。また、外出や受診時希望があれば介護タクシーの連絡・仲介もしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	上記の様に介護タクシーや訪問美容・マッサージ等、依頼し生活の向上を図っている。随時必要な事があれば協力施設や役所に連絡し対応出来る様にしたい		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの指定医は無く入居者時かかりつけ医を確認し、希望の病院に受診する様に説明している。受診時に水分量や血圧等のデータを提出して頂き適切な医療が受けられる様にしている。また、協力医は週に1度訪問があり連携を取っている	入居者・家族の希望するかかりつけ医との関係を大切に、受診の際は家族の状況にあわせて柔軟に対応している。また週1回、協力医の往診時には看護師・薬剤師が同行する場合もある。ホーム看護師による看護記録が整備されており、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いた点を看護師に報告し、看護師はその情報も合わせて看護記録として記入しており、必要であれば病院に連絡する事もある。また、協力病院の看護師も良く状態を把握しており、小さな相談にも乗ってもらっている		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはホームでの生活状況や内服薬など必要な情報を連絡している。また、随時面会に伺い状態の把握や退院後の生活についても把握する様に努めている。病院の相談員を窓口として情報交換を図る様にしている		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての説明を行い入居時点での意向を確認する様にしている。また、1度だが看取りの経験があり、その際は協力医と連絡を取りながら対応した。	入居時に、重度化や終末期の方針を説明し、同意を得ている。これまでに協力医や家族との連携により、看取りを行った経験もあり、状況の変化に応じて、医師も含めたカンファレンスを実施し、方針の共有に取り組んでいる。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会を利用し実施している。また、急変時対応のマニュアルをすぐに確認出来る様にしている		

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の下に年に2回消火・避難訓練を実施している。ホームスタッフのみで実施している為に今後は地域と協力出来る様に努めたい	運営推進会議では、毎回、災害対策についての発言があり、地域への働きかけについても積極的に行われている。入居者も参加する避難訓練が年2回行われており、防災や避難方法に関する研修にも参加している。今年度は、緊急時対応や地震を想定した訓練を、地域と合同で開催できるよう取り組んでいる。	運営推進会議メンバーの積極的な働きかけもあり、災害時における地域との連携体制の構築に向けて取り組んでいる。合同訓練の実現や、具体的な支援体制の整備等により、より実践的な連携となることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会にて尊厳・プライバシーについて実施しており、各スタッフは意識を持ち対応出来る様に努めている。	尊厳・プライバシー保護についての勉強会が、計画的に実施されており、外部研修にも参加している。また接遇についても、外部講師を招いて研修が実施されており、運営方針にも示されている。一人ひとりの尊厳を大切に言葉かけや対応についての意識を高めるよう取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との日々の係わりの中で話しを聞きながら、入浴時の着替え選びや食事時間の変更など本人の希望に添える様にしている。また、ご家族の希望がある方はプランに導入している		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの人員・他入居者様との兼ね合いにより希望に添えない事もあるが、基本的にはご本人様のペースで生活出来る様に支援している。最低限日々の日課は声掛けしており、入居者生活の希望も確認する様にしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えや入浴時の衣類の用意時はご本人に選んで確認して頂く様にしている。また、毎朝、お化粧をされる方もおり、希望に添える様に支援している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様、個々のメニューは実施していないが、普通食・お粥・刻み食については状態・希望に沿っている。また、野菜の皮むきや副食の注ぎ分けやお盆の用意等は状態に合わせて一緒に行う様にしている	食前の手指消毒や食後の口腔ケアの準備、食事の準備・後片付け等に、入居者の方々が役割を分担している。常勤の管理栄養士による、バランス等に配慮された献立が作成されている。全体での外食行事、また誕生日には希望にあわせて個別の外食にも出掛けしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士考案のバランスの摂れた食事を提供しており、毎食時食事量チェック、必要な方は水分チェックも実施している。嚥下状態不良の方にはトロミ剤使用し水分摂取出来る様にしている。また、10時にはコーヒー・紅茶等も飲み物も提供している。		

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後スタッフが声掛け・見守りを行い口腔ケアを実施しており、また、必要な方は舌ブラシも使用している。義歯洗浄剤は定期的にスタッフ管理し実施している。特に必要な方はご家族に説明し毎日洗浄剤使用する方もいる。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表作成・使用にて排泄状態の把握に努めている。把握した時間帯での声掛け・誘導にて失禁を減らす様にしている。また、状態に応じ布パンツも使用している	排泄チェック表による状態の把握、及び個別のサインを見逃さないようにしながら、さりげないトイレ誘導を行っている。基本的に同姓介助とし、出来る限りプライバシーを損ねない対応となるよう心がけている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便確認をしており、必要であれば先生に指示を仰ぐ事もある。ホーム内では毎朝の体操や食物繊維を多く含む牛蒡やバナナをメニューに取り入れる等の対応をしている		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔保持の意味もあり、週2回の入浴日を決めているが、入浴は1人ずつゆっくりと入られる様にしている。また、希望があれば入浴日数を増やし対応している	浴室の窓は大きく設けられており明るく、脱衣所も余裕あるスペースが確保されている。ほぼ毎日、入浴準備を行い、無理強いとならないよう、希望や状況にあわせて柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居時、在宅や前所での睡眠時間を確認している。入居後は就寝・起床時間の記録し把握に努めている。日中はソファー・居室にてゆったりと過ごせる様に声掛け対応している		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表にて服薬管理をしており、各スタッフは薬手帳を参考にし、理解する様にしている。また、往診時は薬剤師も同行され説明を受ける様にしている。また、不明な事があれば随時病院・薬局に連絡を取り対応する様にしている		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時のフェイスシートやセンター方式活用にて生活歴の把握に努めホーム内で対応出来る事を検討し役割等はプランに導入している。新聞取りや園芸等を個々の日課として実施して頂いている。また、歌や絵手紙教室も定期的実施している		

福岡県 グループホーム わらい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日々の散歩等はその日の状態に応じ随時実施しているおり、行事としてドライブ・外食・花の観賞も行っている。また、外泊・外出の規制は無く入居者様から希望があればご家族に働きかけも行う様にしている。</p>	<p>全体での外出・外食行事や、誕生日の個別の外食にも出掛けている。家族の協力も得ながら、外出の支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族・入居者様に説明の上、現金を所持して頂いており、ホームとしてはお小遣い帳を作成し管理している。毎月のパン販売や随時の買い物に対応している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙や電話の使用について特に決め事は無く希望時対応している、また、居室内でゆっくりと電話出来る様にコードレス電話使用している</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用部分の清掃はスタッフのチェックにて実施し、清潔に過ごして頂ける様にしているおり、毎月壁紙の張替え、ベランダの園芸にて季節感を味わって頂ける様に工夫している</p>	<p>2階に位置しているホームの中心にはオープンデッキがあり、リビングには天井部分まで広がる大きな窓が設けられ、花木や野菜(ねぎ・パセリ等)の様子を眺めることが出来る。ホールや廊下、リビングには、ソファや椅子が各所に置かれており、それぞれの方々のくつろぎの場所となっている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食卓やリビングのソファにてゆったりとご自由に過ごして頂いており、ユニット間の移動も自由であり、入居者様が好きな場所で過ごせる様に努めている</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具や配置の決め事は無く入居時に使い慣れた物を持参して頂いている。また、入居後も随時変更可能であり、その都度希望に対応している</p>	<p>表札の掛けられた各居室には、シンプルながら暮らしに必要な品々が持ち込まれており、生活感がある。家族の写真や、好きな芸能人の写真、絵手紙教室の作品等が飾られており、それぞれに工夫された個性ある居室となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベランダ部分はウッドデッキに変更し廊下・階段には手摺を設置しており、安全に移動・生活出来る様にしている。また、居室やトイレはわかりやすいように大きく表示している</p>		